

E 環境関連活動



環境関連活動に関する基本的な考え方

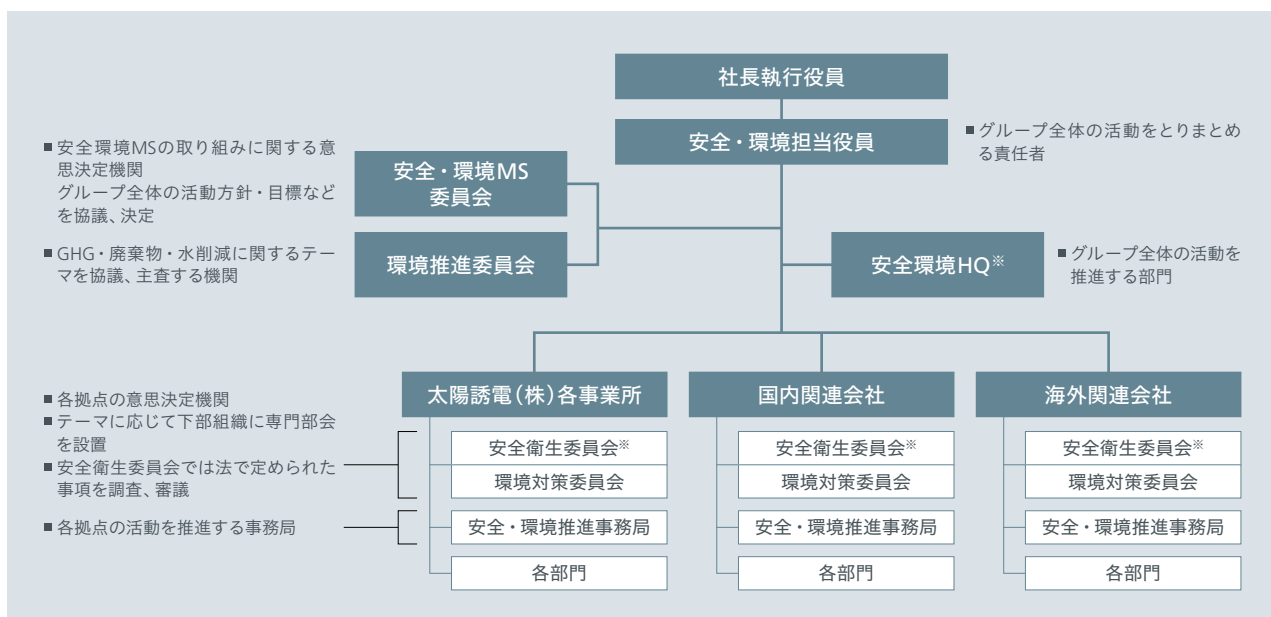
太陽誘電は、企業の社会的責任を果たし、永続的に発展していく企業を目指しています。環境に関する取り組みは、太陽誘電が果たすべき重要な社会的責任の1つであると認識しています。このため、太陽誘電は、環境基本理念「かけがえのない地球を将来の世代に引き継ぐため製品の研究、開発・設計、原材料の調達、製造、販売、付随するサービス

その他あらゆる事業活動における環境負荷を低減します。」のもと、グローバルな視野に立って環境影響の改善に取り組んでいます。

安全と環境に対する推進体制

太陽誘電は、社長執行役員から任命される安全・環境担当役員をグループ全体の統括責任者とし、安全・環境マネジメントシステムの推進体制を構築し、運用しています。「安全・環境MS委員会」「環境推進委員会」において、方針や取

り組むべき課題を協議、決定し、決定事項を拠点の責任者が具体化し、拠点内に伝達・徹底・推進しています。



※HQはヘッドクォーターの略

※安全衛生委員会には会社側と労働者側の代表者を選出

ESG／環境関連活動

環境中期目標について

太陽誘電は、環境対応におけるマテリアリティ（重要課題）として「気候変動への対応強化」と「資源の有効活用と循環型社会構築への貢献」を設定しました。特に地球規模の課題である気候変動に対し、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指した環境中期目標を策定しています。目標達

成のために、脱炭素思想に基づくものづくりを推進する中で、徹底した省エネ・創エネ・再エネを実行していきます。

環境中期目標と達成状況

<https://www.yuden.co.jp/company/sustainability/environment/materiality/>

事業活動と環境の関係

太陽誘電は、主に電子部品を生産し、顧客であるセットメーカーへ納入しています。電子部品のライフサイクルにおける環境影響を分析した場合、使用時に影響は小さく、影響の大半は生産時に起因しています。生産時に発生する主な環境影響としては、エネルギー使用や水使用、製造に伴って生じる排気（CO₂を含む）、廃水、廃棄物などがあげられます。

太陽誘電は、こうした環境影響を細かく把握・分析するとともに、投入する資源の極小化やプロセス改善による省エ

ネルギー・省資源など、様々な施策を講じて環境影響の改善に努めています。また、太陽誘電の製品は電気・電子機器や自動車などに使用されており、それらの商品の寿命が尽きた時点で廃棄物となることから、製品中の有害物質の除去についても対応を図っています。

商品による環境貢献

MLCC生産時の環境負荷低減

太陽誘電の主力商品である積層セラミックコンデンサ（MLCC）は日々進化し、小型化・高性能化が進んでいます。コンデンサの基本的な性能である静電容量（貯められる電気量）が同じMLCCを比較すると、2001年に上市された0603サイズ（0.6mm×0.3mm）と2014年に上市された0201サイズ（0.2mm×0.1mm）では、13年の間に体積が約93%減少しています。このように、小型化を進めることで、原材料や包装材料、輸送エネルギーの削減を実現しています。小型化を進める一方で、MLCC1個当たりの静電容量は2011年から2020年の9年間で約1.9倍となっており、小型

化と同時に高性能化も進んでいます。

このような商品そのものの進化に加えて、生産性改善活動「smart.E」を通じて、生産現場の見える化、異常の早期発見、さらには異常の未然防止といった生産性の向上を図っています。生産時のエネルギーロスを減少し、品質不良による廃棄量を削減することで、より一層環境負荷を軽減できるよう取り組みを続けています。

米粒との比較

